

## イノベーションの推進と新しい価値の創出

オカムラグループは、さまざまな空間に優れた製品とサービスを提供することで、快適で創造性や効率性が高く健康に働き暮らせる最適な空間を提案しています。また、新たな視点から、働く方や働く場に関する調査・研究を行うとともに、共創による事業や情報発信を通して、新たな価値を創出していきます。

### 働き方・働く場に関する調査・研究

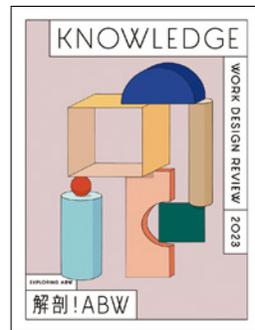
社会構造の変化や技術の進歩、ライフスタイルの多様化などを背景に、働き方や働く場のあり方、生活における仕事の位置づけなどを見直す動きが広がっています。こうした状況を踏まえ、オカムラでは新たな視点から働くことに関する調査・研究を行うとともに、さまざまな企業、大学など広範な分野の方々との連携や情報発信を進めています。

#### 働き方・働く場に関する 調査結果・レポート・書籍の発行

オカムラでは、1980年より働き方や働く場に関する研究所（現：ワークデザイン研究所）を設け調査・研究を続けています。社会の動向や人々の意識の変化を捉え、その中から研究テーマを設定し、大学や研究機関などさまざまな専門分野の研究者と連携しながら一歩先の働き方と働く場を探求しています。研究結果や知見は、各種学会や研究会、研究冊子・ウェブサイト「KNOWLEDGE」などを通して、広く社会に発信しています。2023年11月に「はたらく」にまつわる研究データを集めた『KNOWLEDGE - WORK DESIGN REVIEW 2023』を発行しました。オフィス勤務とテレワークを組み合わせたハイブリッドワークが普及したことにより、仕事の内容や目的に合わせて働く場所を選択する働き方ABW（Activity Based Working）が改めて注目を集めています。世の中でABWで働いている人がどのような行動をとっているのか、どのような

効果を感じているのかをリサーチし、研究結果からABWの効果を引き出すための方法を探り紹介しています。

2024年4月には、書籍『「行きたくなる」オフィス 集う場のデザイン』を発刊しました。新型コロナウイルス感染症によって仕事がリモートワークに置き換えられ、自由に集まることができなくなる状況を経験し、リアルに時空間をともにすることの必要性や期待、価値が一層高まっています。「行きたくなる」オフィスとはどのような場なのか、人が集い新たな価値を創造するためには、どのような環境が求められているのかに焦点をあて、働く場のデザインの要件をユニークなイラストや図とともに解説しています。



『KNOWLEDGE - WORK DESIGN REVIEW 2023』  
(2023年11月)



『「行きたくなる」オフィス 集う場のデザイン』  
(2024年4月)

 **働き方・働く場の研究と視点**  
<https://www.okamura.co.jp/office/knowledge/>

### 2024年の日本の働き方についてトレンドを発表

オカムラのワークデザイン研究所が、これまでに行ってきたさまざまな調査や研究による知見と社会情勢を踏まえてトレンドをまとめ、2023年12月に「SCOPE はたらき方のトレンド2024」として、ウェブサイトにて発表しました。

企業の経営課題をオフィスなどの働く場づくりで解決するための拠りどころや指針となるよう、日本のオフィスの在り方において短期的に取り組めることと中長期的に大切にしたいことを「LIFE(ライフ)」「WELL(ウェル)」「COMMUNICATION(コミュニケーション)」の視点から9つのトレンドとしてまとめました。



「SCOPE はたらき方のトレンド2024」

 **働き方・働く場の研究と視点**  
「SCOPE - はたらき方のトレンド2024」RELEASE  
<https://www.okamura.co.jp/office/knowledge/006252.html>

## 共創により未来の店舗のあり方を 描き出す活動を開始

2024年4月に、「お店のみらいを創造する研究所（愛称：みせいくラボ）」を発足しました。昨今、消費者や小売業を取り巻く環境は大きく変化しており、新しいお店のあり方が求められています。「みせいくラボ」は、社会や市場、業界、技術の動向を捉え、未来の小売りに関わる調査研究を行い、顧客である小売業やパートナー企業、社外研究者などのさまざまな立場の人との共創活動を通して10年先の未来の店舗像を描き出します。お店づくりを通して人と人とのつながりをデザインし、よりよい未来の暮らしに貢献します。



 みせいくラボ  
[https://www.okamura.co.jp/store/research/miseiku\\_lab/](https://www.okamura.co.jp/store/research/miseiku_lab/)

## 物流自動化ソリューションの 事業化に向けた調査研究

オカムラは、AIを搭載したロボットによる自律ピッキングと、ロボット単独では難しい作業を人が倉庫から離れた場所でロボット操作を行い遠隔でピッキング作業を行う、ハイブリッド型の物流自動化ソリューション「PROGRESS ONE（プログレスワン）」の事業化を進めています。

この取り組みの一環として、物流ピッキングロボットを遠隔操作した際の力覚フィードバック効果の調査研究をモーションリブ株式会社と共同で実施しました。この研究は国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が2022年度に公募したプロジェクト「ロボットによる社会変革推進に向けたロボット・AI部事業の周辺技術・関連課題に係る先導調査研究」の一つとして採択されました。

遠隔操作ロボットシステムでは、遠隔地にいるオペレーターが物流現場にあるロボットでピッキング作業を行う際に、操作画面による視覚的な判断だけでは、遠隔での把持（しっかりものをつかむ）操作が困難であることが課題となっていました。この研究では、オペレーターが遠隔地から操作画面を見ながら作業を行う際に、ロボットが物体と接触した時の引っ張られる・押されるなどの力覚情報を人に知覚させる力覚フィードバックが重要であることを実証し、課題を検討しました。

物流現場での新しい働き方を実現するとともに、従来の運用では時間や場所、身体などの制約によって物流現場で働くことが難しかった働き手へ雇用を創出する「PROGRESS ONE」の事業化に向けて、継続して研究や開発を進めていきます。



物流ピッキングロボットを使った実験の様子

## 共創による新しい価値創造活動

### 「WORK MILL (ワークミル)」の活動

オカムラは、働き方や働く場をさまざまなステークホルダーとともに描き、「はたらく」を変えていくことを目的として、「WORK MILL」の活動を推進しています。「WORK MILL」という活動名には、これまでの当たり前にとらわれず、「さまざまな視点で(見る)」、「価値を挽き出す(MILL)」の2つの意味を込めています。多様な人たちとのオープンな共創プロセスのもと、「すぐに見られる」ウェブマガジン、「手に取れる」雑誌・冊子、「訪ねに行ける」共創空間を中心に活動を展開しており、共創による価値創造や、目的や志を共有できるコミュニティづくりを目指しています。

# WORK MILL

 WORK MILL  
<https://workmill.jp/>

### 共創空間での活動

オカムラは「はたらく」をテーマとした共創空間として、Open Innovation Biotope“Sea” (東京)、“Cue” (名古屋)、“bee” (大阪)、“Tie” (福岡)の4カ所を開設、運営しています。ウェブサイトなどでイベント情報を公開し、誰でも参加できる場としての機会提供のほか、お客さまや地域の方、学生などさまざまな方の課題解決や価値創造のニーズに応える共創活動を行っています。

働き方改革につながる支援を目的として、「はたらく」を中心とするテーマでイベントやワークショップなどを開催しており、社内企画だけでなく外部企画の共催・協力など、外部のパートナーとも連携して活動を進めています。2023年度も対面・オンラインの両方でさまざまなイベントを開催しました。オンラインでは、共創空間を開設している地域以外の多くの方にもご参加いただき、また、対面開催のイベントやワークショップでは、参加者同士の共創の輪を広げることができました。



Photo : Norihito Yamauchi



<https://sea.workmill.jp/>



<https://cue.workmill.jp/>



<https://bee.workmill.jp/>



<https://tie.workmill.jp/>

## TOPICS

## 子どもたちの好奇心から空間づくりを行うプロジェクト

WORK MILLでは、乳幼児向け玩具メーカーであるピープル株式会社（以下、ピープル）とAIC国際学院（以下、AIC）とともに、AICに「好奇心はじけるラーニングラウンジ」をつくるプロジェクトに取り組んでいます。この取り組みは、ピープルの、子どもたちと一緒に好奇心を形（商品）にする活動「子どもPeopleプロジェクト」の一環です。

参画のきっかけは、発達障がいのある子どもと家族の支援を行う一般社団法人チャレンジドLIFE代表の畠中直美さん。畠中さんとは、さまざまな特性を持つ人の視点を取り入れたオフィスづくりなどのプロジェクトを一緒に行っており、今回お声がけいただきました。

このプロジェクトは、ピープルが「好奇心」について子どもたちとともに理解を深めるサポートを行い、子どもが自分たちで設計図・模型作成をする中でアイデアを出し、オカムラから空間づくりのアドバイスを受けて、実際に皆で使えるラーニング

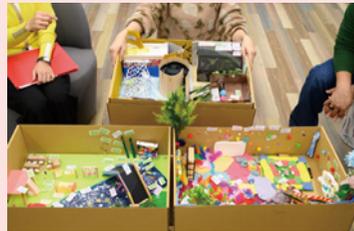
ラウンジの実現につなげます。15名の子どもたちが参加し「ワクワクって何だろう？」と問いかけながら、フィールドワークに出かけ、心に響いた物を撮影してもらいました。その写真をほかの子どもに見せながら自分の言葉で「なぜ興味を持ったか」「自分はどう感じたか」をシェアしました。子どもたちは、「好奇心」を限られたスペースへどう落とし込むかを話し合いながら、1人5枚の設計図を作成し、お気に入りの1枚をもとに模型を作成しました。その後、オカムラやピープル、保護者を招いて子どもたちによるプレゼンテーションを実施。プレゼンを聞いて感じたことを付箋に書いて模型に貼り、フィードバックを行いました。「しみりしてほしい」という意図でデザインした場所に違った感想の付箋が貼られることもありましたが、これらのフィードバックを受けて、絶対に採用したいと思うアイデアを5つに絞り込みました。「あの時のシャイニングな窓を表現したい」と言ってキラキラした壁をデザインするなど、一つひとつの要素にストーリーがある設計がでさ上がりました。子どもたちが取り組む様子や自由で柔軟な考え方を通じて、一人ひとりの個性をとことん追求すると、バラバラになるどころかみんなが居心地の良いチームワークにつながるという学びがありました。プロジェクトでは、子どもたち15名のアイデアを実際に空間として形にし、「好奇心はじけるラーニングラウンジ」の実現につなげます。



学校周辺をフィールドワーク（提供写真）



子どもたちは1人5枚の設計図を作成（提供写真）



「ワクワク」や「ドキドキ」をどう配置するか考えながら作った模型



15名のアイデアをもとに、オカムラが空間の図面を作成

## さまざまな環境の構築と提案

### 社会課題の解決に向けた 省人化・省力化の取り組み

労働人口の減少により物流現場をはじめ、公共施設の運用、ビル清掃など多様なシーンで人手不足が深刻な社会課題となっており、省人化・省力化が進められています。オカムラは、省人化・省力化をサポートするさまざまな製品やサービスの開発・販売を展開し、お客さまの働く場や施設などに導入いただくことで、社会課題の解決に貢献します。

**自治体施設の入館手続き、ドアの解錠、会員情報管理を省人化**  
長野県塩尻市にある地域DXの拠点として開設された「地域DXセンター core 塩尻」へデジタルトランスフォーメーションサービス「Work x D (ワーク・バイ・ディ)」を納入しました。利用者や運営者が快適かつ利便性高く利用するためには、混雑時の会議室予約や鍵の貸し借り等の手続き、会員情報の管理などに課題がありました。「Work x D」の専用アプリを活用することで、それらの課題を解決し対応が完結するため、利便性を高めるとともに施設運営をサポートします。

### 物流現場に国内最大級の高さのロータリーラックを納入

約180万アイテムの大きささまざまなねじ・締結部品を取り扱う専門商社サンコーインダストリー株式会社さまの物流センター5号館に、国内最大級となる高さ14mの自動倉庫システム「ロータリーラックH」を納入しました。これまでも、ねじを1本から販売する「数通り販売」の体制強化やアイテム増加に対応するため「ロータリーラックH」を納入してきました。今回新設された物流センター5号館の限られた空間を有効利用して取り扱いアイテム数の増加に対応するために、高さ14mの「ロータリーラックH」を設置し、26,496ロケーション(ケース)の保管を実現しました。高速な入出庫作業が可能となり、運送会社の荷待ち時間の削減に貢献するほか、作業者の手元に商品が運ばれる定点ピッキングの運用に変わったため、入出庫作業時に商品を探して歩き回ったり、重さが20kgほどもある段ボールを運んだりする必要がなくなるなど、作業者の負荷が軽減しました。



国内最大級の高さの「ロータリーラックH」

### ビル清掃の省人化を目指した実証実験

オカムラが開発した業務用掃除ロボット「STRIVER (ストライバー) II」は、業務用掃除機を搭載して搬送し、自律走行して床掃除を行うロボットで、ビルの共用スペースで活用することでビル清掃の省人化を目指しています。清掃サービスの品質向上と業務効率化の実現に向けて、掃除ロボットとエレベーターを連携して自律自動で清掃業務を行う実証実験を野村不動産ホールディングス株式会社と共同で実施しました。2023年6月～8月までの予備実証と2023年10月～2024年4月の本実証を行い、この実証を通して複数台のロボットのエレベーター連携や一元管理、災害時対応の検討を進め、オフィスビル1棟全体での掃除ロボット活用を目指します。



エレベーター連携の様子

## 誰もが生き活きと働ける職場環境の整備と提案

オカムラでは、心と体の調和が取れ、活力が向上している状態を「WELL at Work (ウェルアットワーク)」とし、その実現をサポートするために、従業員がパフォーマンスを最大限に発揮しそれぞれの働きがいの向上を目指すための空間づくりや働き方の提案をしています。

東京都渋谷区にある自社オフィス「CO-EN LABO (交縁ラボ)」は、心身の健康への配慮と、多様な選択肢があるワークスタイルや一人ひとりが自らの存在意義を実感できる環境づくりを掛け合わせ「WELL at Work」の実現を目指したラボオフィスです。調節可能な機能を備えたタスクシーティングや天板の電動上下昇降機能でさまざまな姿勢に対応するデスクのほか、Indoor Advantage 認証\*を取得した自社製品を多数導入しています。また、プライバシーを確保した仮眠スペースや運動・休息スペースの設置に加え、日本出版販売株式会社と共同でパッケージ開発を進めているオフィス向け体験型コミュニケーションパッケージ「City Farming (シティファーム) with Okamura」を設置し、イチゴの栽培を通じたコミュニケーションの活性化を進めています。

これらの取り組みが、人の健康とウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好であること）に影響を与えるさまざまな機能をパフォーマンスベースで測定・評価・認証する「WELL Building Standard™ v2 (WELL 認証v2)」の評価基準に沿って評価され、認証レベル「プラチナ」を取得しました。

このオフィスの見学や提案を通じて、さまざまなオフィスで誰もが生き活きと働く環境が実現することを目指します。

\* Indoor Advantage 認証：米国オフィス家具業界団体 BIFMA が設けたオフィス家具による室内空気環境への影響を評価する環境認証



「CO-EN LABO」



「WELL 認証v2 プラチナ」取得



「City Farming」のイチゴ栽培を通じたコミュニケーション

## さまざまな空間構築の事例を紹介

オカムラでは、さまざまな空間づくりの取り組み事例を、ウェブサイトや冊子にて紹介しています。

オフィス環境事業では、オフィスや公共・文化施設などの納入事例について、プロジェクト発足の背景やお客さまの課題・要望に対するオカムラからの提案、構築した空間などを紹介するサイト「オフィスデザイン事例」、オフィスデザインと共に担当したスペースデザイナーを紹介するサイト「Experience Design by OKAMURA」を公開しています。商環境事業では、最先端の店舗情報として、スーパーマーケットや各種業態の納入事例を隔月で紹介する冊子『Stores of the Month』を1989年より発行しており、2024年4月には200号を発行しました。また、ウェブサイトでも「店舗・商環境の納入事例」を公開しています。物流システム事業では、機器やシステムを納入した物流倉庫などのソリューション事例を「物流システムの納入事例」としてウェブサイトで公開しています。

お客さまに、より具体的な空間イメージを持っていただくとともに、時代の変化やニーズに合わせた空間構築のサポートができるよう、情報発信に努めています。

 **オフィスデザイン事例**  
<https://www.okamura.co.jp/office/works/>

 **Experience Design by OKAMURA**  
<https://okamura.design/experience/>

 **店舗・商環境の納入事例**  
<https://www.okamura.co.jp/casestudy/store/>

 **冊子『Stores of the Month』**



 **物流システムの納入事例**  
<https://www.okamura.co.jp/casestudy/mhs/>

## TOPICS

## オフィスをイノベーションや組織間シナジーを発揮できる中心地に

オカムラは、働く環境の構築をサポートし、お客さまである企業の事業活動を支え、「人が活きる社会の実現」に向けて取り組みを展開しています。電子機器メーカーのアルプスアルパイン株式会社さま（以下、アルプスアルパインさま）が仙台開発センター（宮城県大崎市）に新設したR&D棟において、新しい働き方を実現するオフィスを構築。オカムラがオフィス構築のサポートを行いました。

アルプスアルパインさまは、オープンイノベーションを最大限に発揮することが製品の研究開発を強化する上で重要な要素だと捉え、既存の3棟を取り壊しR&D棟を新設しました。4フロアの広大な建物に、各地に分散していた開発機能を集約し、コミュニケーション活性化によって化学反応を起こすことを期待されていました。執務エリアと試作・実験エリアを近接させつつ、そこにインフォーマルなコミュニケーションが生まれる工夫を凝らすことで、ここへ来ることに価値を感じられる環境の実現を目指し、企業理念である「人と地球に喜ばれる新たな価値を創造」する場にしたいという要望がありました。

オカムラは、新オフィスに求められる部門を越えた交流や組織間シナジー、新しい価値の創出やイノベーションの実現に向けて、「KYO-SO（共想・共奏・共創）」という空間コンセプトを提案しました。「KYO-SO」が浸透しその場を使う社員にスムーズに馴染むように、アルプスアルパインさまの企業ビジョンである3つの価値「Right」「Unique」「Green」から、「KYO-SO」を促すベースを設計しました。「Right」は、フロアゾーニングの工夫や仕事の内容に応じて働く場を選ぶABW（Activity Based Working）のレイアウトで、多様な環境の中から目的に合った“最適な場”を直感的に選択できること。「Unique」は、建築空間や働き方に合わせた“独自性の高いユニークな機能”を選択できること。それを人が集まる中央階段まわりに設けた「ワイガヤ」エリアで表現しました。「Green」は、人や自然環境に配慮した“優しさを感じる環境”で快適に過ごせること。多彩な配色やインテリアグリーン、環境配慮製品の活用といった方法で空間に落とし込みました。この3つの考え方を主軸とし、そこで働く人々が自然と「KYO-SO」できる空間を目指しました。



4フロアにわたる広大な建物



大空間を生かした執務エリアで目的に合った最適な場を選ぶ



アイデアを醸成したりチームでの意見交換がしやすい「ワイガヤ」エリア



つながる空間で健やかに働く